

令和4年度

【たつの市】 認知症地域支援推進員活動報告

【たつの市】 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：6名（専従：5名 兼務：1名）
- 2 認知症地域支援推進員の役割

医療・介護等の 支援ネットワーク 構築

- ・ 認知症疾患医療センターを含む医療機関、介護サービス事業所等関係者の連携体制構築
- ・ 認知症ケアネット（赤とんぼ連携ノート、認知症生活べんり帳）の作成・普及

認知症対応力 向上のための 支援

- ・ 認知症に関する正しい知識の普及・啓発
- ・ 認知症対応力向上研修を医師会等と共催、多職種協働研修の開催
- ・ たつの市キャラバン・メイト連絡会の支援、認知症サポーターの支援

相談支援 ・ 支援体制構築

- ・ 認知症予防普及啓発（個別相談、講座の実施など）
- ・ 認知症初期集中支援チームの主導・調整
- ・ もの忘れ相談の実施
- ・ 認知症の相談支援、認知症カフェ等の支援
- ・ 若年性認知症の相談支援、若年性認知症カフェの開催
- ・ はいかい高齢者等見守りSOSネットワーク構築
- ・ はいかい高齢者家族支援サービス
（GPS貸出、はいかい高齢者等お出かけリスクゼロ事業）の普及
- ・ 介護マークの普及



市担当者：前田 弥央

報告者氏名：福井暁子・福本久美・藤永真末・半田由紀子・木下順子

認知症施策推進大綱

【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら『共生』と『予防』を車の両輪として施策を推進

コンセプト

○認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることも含め、多くの人にとって身近なものとなっている。

○生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前を向き、力を生かしていくことで極力それを減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。

○運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防に関するエビデンスを収集・普及し、正しい理解に基づき、予防を含めた認知症への「備え」としての取組を促す。結果として70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目指す。また、認知症の発症や進行の仕組みの解明や予防法・治療法等の研究開発を進める。

たつの市認知症施策概要図

目指すべき社会

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって過ごせる社会

具体的な施策

認知機能の低下のない人、プレクリニカル期

認知症発症を遅らせる取組
(一次予防)の推進

認知機能の低下のある人(程度認知障害(MCI)含む)

早期発見・早期対応(二次予防)、発症後の進行を遅らせる取組(三次予防)の推進

認知症の人

認知症の本人の視点に立った「認知症バリアフリー」の推進

① 普及啓発・本人発信支援

- 認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座:認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を応援するサポーター養成の出前講座等を実施。認知症サポーターの自主的な活動を推進する。
- 認知症キッズサポーター養成講座:小中学校教育の中で、認知症への理解を深めるため認知症サポーター講座を実施。 ○キャラバン・メイトの活動支援:キャラバン・メイトの活動を支援。定期的に連絡会実施。
- 本人ミーティングの普及
- 認知症生活べんり帳の普及、活用:認知症の予防段階から状態に合わせて利用できる相談先や制度、サービスをまとめた冊子 ○龍野城ライトアップ ○認知症図書コーナーの設置

② 予防

- 認知症予防普及啓発:認知機能評価ツール(脳活バランサー)を用いた個別相談。のう KNOW を活用したブレインパフォーマンス(脳の健康度)のセルフチェック。認知症予防講演会(年1回)。出前講座「認知症予防講座(認知症に備える)」の実施。いきいき百歳体操4年目グループに認知症予防講座を実施。

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- 認知症初期集中支援チームによる訪問支援:専門家チームが本人や家族を訪問し、家族支援や助言等を行い、必要な医療・介護サービスの利用へのつなぎを行う。
- DASCを使用した実態把握訪問による認知症早期発見
- もの忘れ相談:専門医による認知症個別相談(年間6回)
- かかりつけ医向け認知症対応力向上研修・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修
- 認知症等に関する医師会・西播磨認知症疾患医療センターとの連携会議:年数回実施予定
- 赤とんぼ連携ノート~認知症に備える私のノート~の普及:認知症になる前から、医療、介護の情報や大切なことを書いておき、本人の希望に沿った支援、連携支援に役立てる。 ○認知症生活べんり帳の普及
- 認知症連携ツール:認知症の方が入院、入所する際に、BPSD 連携表(かかりつけ医が記入)、OLS 基本情報(ケアマネが記入)で連携を図る。
- たつのカフェ(認知症カフェ)の運営
- たつの市認知症カフェ連絡会:認知症の人や家族の介護負担の軽減を図るため、誰もが気軽に参加でき集う「たつのカフェ(認知症カフェ)」の運営支援を行うために、情報交換の場として連絡会を開催。(年2回程度)

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

- はいはい高齢者等見守り SOS ネットワーク:事前登録(ビカッとシューズステッカー)、緊急時の捜索体制、日常の見守り体制の構築を図る。
- はいはい高齢者家族支援サービス:GPS 端末機を利用した所在不明時の捜索、保護サービス。
- はいはい高齢者等おたけりリスクゼロ事業:日常生活に起因する偶発的な事故等により他人にケガをさせたり財物を壊した事等により法律上の損害賠償責任を負う場合に保険金を給付する。
- 安心声かけ体験講座・訓練:はいはい高齢者への声かけの仕方を学び、地域における見守り体制を強化するための講座を実施。希望される自治体で模倣訓練を実施。
- 介護マークの普及:認知症の人の介護において、介護中であることを周囲にわかりやすくするための名札型介護マークを配付。
- 生活支援の充実 ○住宅等の環境整備 ○社会参加の支援 ○消費者被害の防止 ○成年後見制度の活用促進 ○高齢者の虐待防止
- 若年性認知症交流会(きりかぶカフェ):NPOいねいぶと協働し、若年性認知症の方やその家族が「果う」(必要な支援に)つながる「リハビリがてら動く」場として開催。
- チームオレンジの構築

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- 県立リハビリテーション西播磨病院認知症疾患医療センターへの協力等

認知症の人や家族の視点を重視

上記1~5の施策は、認知症の人やその家族の意見を踏まえ、立案及び推進する。

<⑦>：その他 地域の見守り体制の構築
～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～
初期集中支援チームに入った相談 (70代独居高齢者)

<認知症初期集中支援チーム介入の経緯>

①警察から地域包括支援課に連絡。



②振込み詐欺被害に遭遇。警察からの防犯指導も覚えていない様子があり、複数回振込み詐欺の被害に遭遇。



③認知症が疑われ、認知症初期集中支援チームの介入となる

被害内容

ある団体から多額の資金を送るというメールあり。電子マネーを購入しIDを相手に伝える。



<⑦>：その他 地域の見守り体制の構築
～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～
初期集中支援チームに入った相談 (70代独居高齢者)

<認知症初期集中支援チーム介入の内容>

- ・訪問にて本人の認知機能評価実施。
本人はもの忘れの自覚や生活の困り事はなかったが「詐欺の原因を知るための脳検査の実施」と働きかけ、受診へとつなぐ。
- ・専門医への受診支援を行う。
かかりつけ医と連携し認知症疾患医療センター受診につなぐ。
- ・度重なる被害遭遇により親族（自宅隣在住）との関係性が悪化していたため、本人、親族、チーム員で話し合いの機会を何度も持つ。
親族が買物、不審メールの確認を担うようになり、本人了解のもと、携帯会社でのメール受診停止に至る。
- ・本人・親族と話し合い、今後に備えて成年後見センターへ相談に至る。
- ・詐欺被害再発防止のため近隣の見守り体制（ネットワーク）の構築を図る。
（親族、民生委員、駐在所、警察、コンビニ等）

ネットワークの構築により地域活動への
再参加・社会的交流の増加あり

＜⑦＞：その他 地域の見守り体制の構築
～認知症が疑われる方の詐欺被害への支援を通して～
支援のポイント

1. 本人への支援

被害に遭った本人への精神的支援と認知症専門医療機関受診への支援

2. 家族・介護者への支援

傾聴と相談先の提示、介護負担軽減の為の支援

3. 医師との連携

かかりつけ医・専門医への情報提供と受診調整
医師から本人・家族への助言・指導

4. 警察との連携

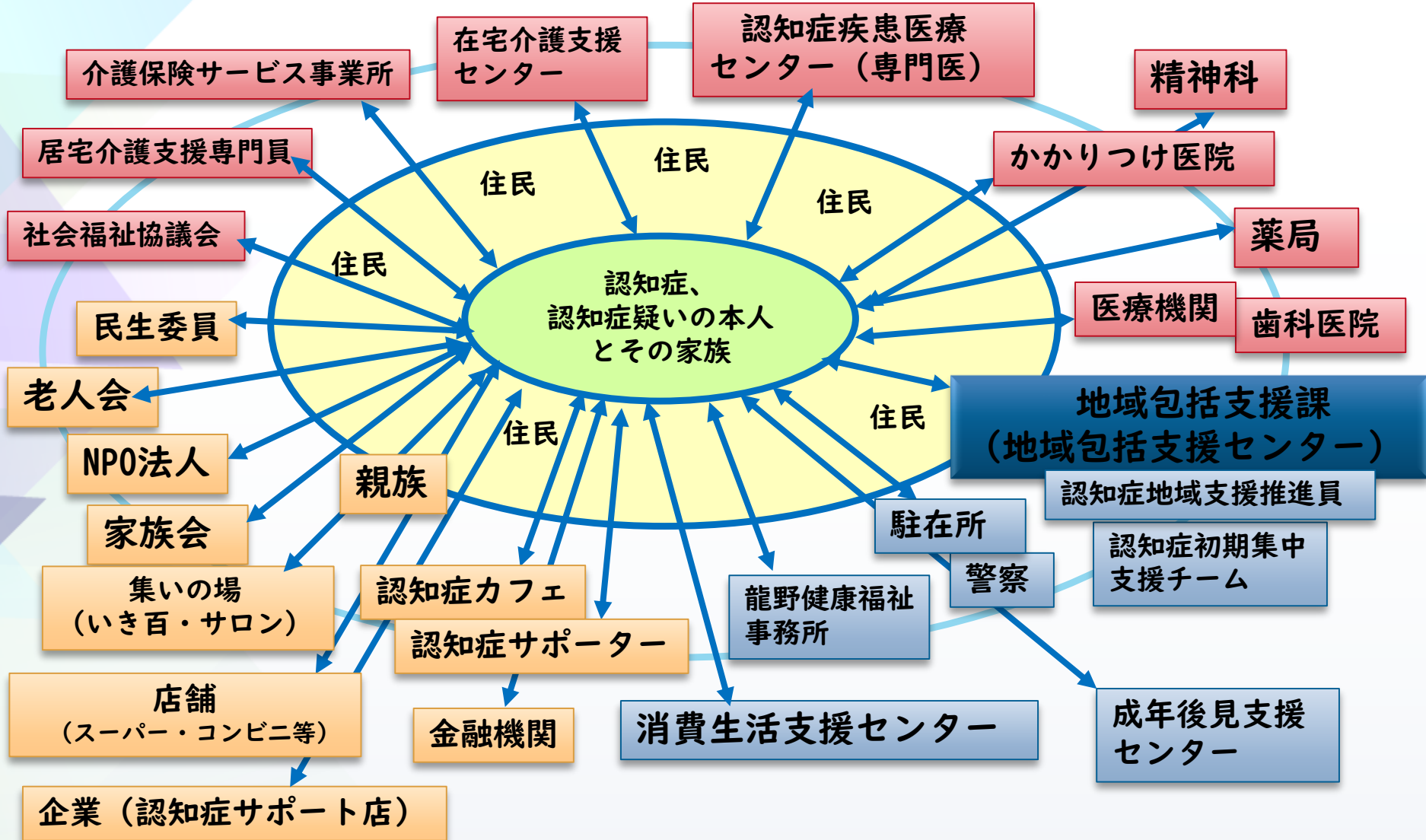
今後の被害防止に向けた対策の協議

5. 地域の見守り体制の構築

家族・民生委員・駐在所・警察・店舗（スーパー・コンビニ）・金融機関等への見守り依頼。平時からの情報共有、有事の際の連携について協議。



＜⑦＞：その他 地域の見守り体制の構築
～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～
地域の見守り体制（ネットワーク）



<⑦>：その他 地域の見守り体制の構築 ～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～ 課題と今後の取組

○課題

- ・ 認知症の本人とその家族が詐欺被害に遭っていることに気付かない。
- ・ 詐欺で問題を抱えている高齢者に対する周囲の気付きが十分でない。
- ・ 詐欺で問題を抱えている高齢者の相談先の周知が十分でない。
- ・ 何度も詐欺被害に遭遇する高齢者に対して、認知症かもしれないという周囲の気付きや判断力が十分でない。

○今後の取り組み

- ・ 多職種との連携強化（事案発生前からの見守り体制の構築と充実）
警察・かかりつけ医・専門職・ケアマネ・民生委員・近隣住民・よく利用する店舗など
地域全体で見守り体制を強化していくことが必要。
→地域全体で詐欺被害に気づく事ができ、ストップがかけられる町づくり
- ・ 広報・ホームページ・認知症サポーター養成講座等で高齢者の被害の実態と相談先、
認知症による被害を見据えた対応について周知を図る。
→地域で必要に応じてチームオレンジが立ち上がり、問題を抱えた認知症の方の支援に取り組む。

認知症になっても
安心して自分らしく暮らせるまちへ

